

「義の奴隷として進む」

(ローマ6・15～23)

一、「罪を犯す」とは？

15節をご覧ください。ここでは、どうなのでしょう。私たちは律法の下もとにはなく、恵みの下にあるのだから、罪を犯そう、となるのでしょうか。決してそんなことはありません。とあります。キリストを信じる者は、罪を犯しても罪に定められないのでしょうか。そんなことはありません。ちなみにここに、

「罪を犯そう」という訳語が出てまいります。元のことは「標的を射さなう」という意味の動詞で「一つのことば」です。英語の聖書では「sin」です。しかし日本語で「罪を犯す」を見ますと、あるいは聞きますと、「悪いことを行ってしまう」の意味合いで、受け止めてしまっているのではないのでしょうか。そうではありません。神は人(アダム)を「罪の道」、すなわち神に背を向けて歩むこと

もできるように、神ですら立ち入ることのできない「意思」を持ったものとして創造されました。ですから人(アダム)は、罪がありませんでしたが、自らの意思で「罪の道」を選ぶこともできたわけですね。ということは、主イエス・キリストを信じて罪赦され、本来のあるべき姿が回復され始めた私共であつても、

再び神から離れた状態になることもできるわけですね。おそらく急には、そうならないであります。が、本来のあるべき姿から外れた状態から、カインの末裔まつえいによる罪深い文明ができたように、再び神から離れた生活に戻ってしまうこともあるわけですね。私共は、罪から救われても、罪を犯すこと、すなわち神の御意思に背を向けて生きて行くこともできるわけですね。

二、アダムと同じ失敗をしない

私たちに求められているのは、アダムと同じような失敗をしないことです。創世記によれば、神は世界を非常に良いものとして造られました。当然のこと、人(アダム)は良いものとして、神のかたちに似せて、男と女に造られました。ところが、人(アダム)は神に背を向けて自分で生きる道を選びました。そして罪が入って来ました。こうして人は、神が望まれる姿でなくなりまして。ですが、主イエス・キリストは罪の問題を解決されました。私共は、主イエス・キリストが私たちの罪の身代わりとなって十字架で贖いの死を遂げてくださったと信じるだけで、罪の縛りから解放されるのです。これは神の知恵から出たことなので、私共は信じるだけで十分であり、それ以上でもなければ、それ以下でもありません。

では、主イエス・キリストを信じた私

たちは、その後どうしたらよいのでしょうか。16節を見てまいりましょう。

「あなたがたは知らないのですか。あなたがたが自分自身を奴隷として献げて服従すれば、その服従する相手の奴隷となるのです。つまり、罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至ります。」と、パウロは語りました。もし私たちが主イエス・キリストを信じて、そこから離れたくないと願うなら、自分自身を義の奴隷にしてしまふことです。パウロ先生のことばによれば、人は罪の奴隷になるか、従順の奴隷になるかの、どちらかです。従順の奴隷の意味は17節、18節で語られています。「**神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規範に心から服従し、罪から解放されて、義の奴隷となりました。**」と。主イエス・キリストを信じる者は、

「**伝えられた教えの規範に心から服従する(従順の奴隷)**であり、**義の奴隷**です。自分を自らの意思で、そういう状態に置いてしまふのは、実に神の知恵だと言えます。教会の礼拝で、毎週ではないにしろ、「使徒信条」を告白します。まさしく「**伝えられた教えの規範**」です。主イエス・キリストを信ずるとは、自分が信じたように信じるのではなく、どのように信じられてきたのかに耳を傾けて、信することです。

三、義の奴隷として進む

19節をご覧ください。あなたがたの肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。以前あなたがたは、自分の手足を汚れと不法の奴隷として献げて、不法に進みました。同じように、今はその手足を義の奴隷として献げて、聖潔に進みなさい。」とあります。19節以降は、信仰が未熟であつても分かることばとして、パウロが語ったことばです。

要は、キリストを信じたら、自分を義の奴隷として歩むしか、信仰が続く道はないということです。律法主義になつて、自分を、人を、みことばの基準で裁き続けるのはまちがいです。ですが、せっかくキリストの救いをいただき、アダムの姿が回復されたのであるなら——私が申し上げる「**アダム**」は、女も含めての、「人」の意味です——、義の奴隷、従順の奴隷、伝えられた教えの規範に心から服従する奴隷となつて進み、永遠のいのちを獲得するのが、神のみこころです。22節、23節に書いてあるとおりです。しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得ています。その行き着くところは永遠のいのちです。罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」と。